

第2次一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン 2024年度事業計画進捗確認票(年度末確認)

基本方針		基本施策		実施手法		推進主体	市の評価
1	協働による取組を進めます 市民、事業者との連携を強化し、	1-1 市民との連携による取組の推進		1-1-1	3R学習の充実	環境政策課	○
				1-1-2	担い手づくりに向けた取組の推進	環境政策課	○
		1-2 事業者・各種団体との連携による取組の推進		1-2-1	飲食店・スーパー・百貨店等の事業者との協働による取組の推進	環境政策課	○
				1-2-2	スポーツチーム・教育機関等団体との協働による取組の推進	環境政策課	△
		1-3 市民や事業者の主体的取組の支援		1-3-1	地域が行う取組の支援	環境政策課	○
				1-3-2	事業者が行う取組の支援	環境政策課	○
				1-3-3	各種情報ツールを活用した情報発信	環境政策課 ごみ収集課	○
基本方針		基本施策		取組施策		推進主体	市の評価
2	家庭系ごみの減量を 進めます	2-1 生ごみの減量の推進	重点	2-1-1	生ごみの発生抑制	環境政策課	○
		2-2 プラスチックごみの減量の推進	重点	2-2-1	プラスチックごみの発生抑制	環境政策課	△
			重点	2-2-2	プラスチックごみの資源化の推進	環境政策課	△
		2-3 その他の家庭系ごみの減量の推進	重点	2-3-1	リデュース・リユースの推進	環境政策課	△
				2-3-2	リサイクルの推進	環境政策課	△
	2-4 家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討		2-4-1	家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討	環境政策課	○	
3	事業系ごみの減量を 進めます	3-1 事業系ごみの適正排出の推進	重点	3-1-1	適正排出に向けた取組の推進	環境政策課	◎
				3-1-2	優良事例の公表・拡大	環境政策課	○
		3-2 事業系ごみの減量の促進		3-2-1	公共施設から排出される事業系ごみの削減	環境政策課	○
				3-2-2	事業系生ごみの削減	環境政策課	△
		3-3 事業系ごみ処理手数料の見直し検討		3-2-3	事業系紙類の減量・資源化	環境政策課	○
		3-3-1	事業系ごみ処理手数料の見直し検討	環境政策課	○		
4	環境に配慮した資源化施設を整備し、安全な処理に努めます	4-1 一般廃棄物処理施設の整備	重点	4-1-1	環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備・運営	循環型施設管理課	△
				4-1-2	生ごみのバイオガス化施設の整備・運営	循環型施設管理課	-
				4-1-3	資源化施設の整備	循環型施設整備課	△
		4-2 収集体制の整備		4-2-1	収集体制の見直し	ごみ収集課	△
		4-3 資源の有効活用の推進	重点	4-3-1	資源化の拡大	環境政策課 循環型施設管理課	○
5	社会的課題への対応を強化します	5-1 災害時等のごみ処理に関する対応力強化	重点	5-1-1	災害時等のごみ処理に関する計画の見直し	環境政策課	○
				5-1-2	災害時等の教育・訓練	環境政策課 ごみ収集課	○
				5-1-3	応援・受援体制の整備	環境政策課	○
		5-2 超高齢社会の到来に伴うごみに関する問題への対応		5-2-1	高齢者等に対応した収集体制の検討	ごみ収集課	△
			5-3 不適正処理防止対策		5-3-1	不用品の違法回収防止対策の推進	環境政策課 ごみ収集課
				5-3-2	不法投棄防止対策の推進	ごみ収集課	○
				5-3-3	まちの美化の推進	環境共生課	◎
	5-3-4	持ち去り行為防止対策の推進		ごみ収集課	△		

基本方針		基本施策	重点	実施手法		協働による主な実施手法						
						1-1-1	1-1-2	1-2-1	1-2-2	1-3-1	1-3-2	1-3-3
1	市民、事業者との連携を強化し、協働による取組を進めます	1-1 市民との連携による取組の推進		1-1-1	3R学習の充実							
				1-1-2	担い手づくりに向けた取組の推進							
		1-2 事業者・各種団体との連携による取組の推進		1-2-1	飲食店・スーパー・百貨店等の事業者との協働による取組の実施							
				1-2-2	スポーツチーム・教育機関等団体との協働による取組の実施							
		1-3 市民や事業者の主体的取組の支援		1-3-1	地域が行う取組の支援							
				1-3-2	事業者が行う取組の支援							
				1-3-3	各種情報ツールを活用した情報発信							
2	家庭系ごみの減量を進めます	2-1 生ごみの減量の推進	◎	2-1-1	生ごみの発生抑制	○	○		○	○	○	○
		2-2 プラスチックごみの減量の推進	◎	2-2-1	プラスチックごみの発生抑制	○	○	○	○		○	○
			◎	2-2-2	プラスチックごみの資源化の推進	○	○			○		○
		2-3 その他の家庭系ごみの減量の推進	◎	2-3-1	リデュース・リユースの推進	○	○	○	○	○	○	○
				2-3-2	リサイクルの推進	○	○	○	○	○	○	○
		2-4 家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討		2-4-1	家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討							
3	事業系ごみの減量を進めます	3-1 事業系ごみの適正排出の推進	◎	3-1-1	適正排出に向けた取組の推進						○	
				3-1-2	優良事例の公表・拡大						○	○
		3-2 事業系ごみの減量の促進		3-2-1	公共施設から排出される事業系ごみの削減						○	
				3-2-2	事業系生ごみの削減			○	○		○	
				3-2-3	事業系紙類の減量・資源化						○	○
		3-3 事業系ごみ処理手数料の見直し検討		3-3-1	事業系ごみ処理手数料の見直し検討							
4	環境に配慮し、適正かつ資源化安全な処理に努めます	4-1 一般廃棄物処理施設の整備	◎	4-1-1	環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備・運営							
				4-1-2	生ごみのバイオガス化施設の整備・運営							
				4-1-3	資源化施設の整備							
		4-2 収集体制の整備		4-2-1	収集体制の見直し							
		4-3 資源の有効活用の推進	◎	4-3-1	資源化の拡大							
5	社会的課題への対応強化	5-1 災害時等のごみ処理に関する対応力強化	◎	5-1-1	災害時等のごみ処理に関する計画の見直し							
				5-1-2	災害時等の教育・訓練	○		○		○		○
				5-1-3	応援・受援体制の整備							
		5-2 超高齢社会の到来に伴うごみに関する問題への対応		5-2-1	高齢者等に対応した収集体制の検討							
		5-3 不適正処理防止対策		5-3-1	不用品の違法回収防止対策の推進							○
				5-3-2	不法投棄防止対策の推進					○		○
				5-3-3	まちの美化の推進				○	○		○
				5-3-4	持ち去り行為防止対策の推進					○		○

実施手法	推進主体
1-1-1 3R学習の充実	環境政策課

【指標と目標】

【事業計画】

指標	2024年度目標	2024年度実績	2024年度の取組方針・内容
出前講座	120回	122回	幼児や小学生の保護者に向けより効果的な啓発ができるよう内容の検討をします。また、容器包装プラスチック全市収集開始に向けて効果的に周知していきます。
イベント出展	30回	30回	市内各地で開催できるよう調整を行い、来場者の年齢層や地域の特性等を考慮した内容で啓発を行います。
主催イベント実施	1回	1回	実施内容や効果を精査して実施します。
キャンペーン実施	14回	24回	季節や時期に合わせた内容のキャンペーンを年間を通じて実施します。
町田市バイオエネルギーセンターで実施されるイベントへの出展	3回	4回	事業者と協働して効果的なごみ減量・資源化の啓発を実施します。
オンライン講座（新規）	2回	1回	ごみ減量サポーター研修会に出席できなかった方に向けてオンラインで視聴できるよう講座を実施します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
小中学生への啓発が家庭内での啓発につながるので充実してほしい。子供たちはDVDやスライドなどよりも現物に触れながら学習することが効果がある。学習の仕方にも工夫がほしい。コンポストやキエーロなどを使った実験を取り入れるなど。	講座の内容については、小中学校の担当教諭と相談し、現物を使用した方法も提案して実施を検討してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
・子ども向けの出前講座は、指定収集袋に混入するリチウムイオン電池等が要因とみられる火災の予防やプラスチックの削減・資源化を主なテーマとしました。幼児向け講座では火災予防の一環として分別に関する紙芝居を行い、小学校向けの講座では、市民が実際に排出した燃やせないごみの現物を使用した分別クイズを授業に取り入れ、火災予防のための適切な分別の仕方や重要性を伝えました。中学校・高校の出前講座では、使い捨てプラスチック削減に関する講座を行いました。また、保護者へ向けての啓発として、保護者連絡アプリtetoruや各園のアプリを活用して小型充電式家電の分別チラシ等を電子データで配信することで、学校からの通知とあわせて確認いただけるようにしました。tetoru等のアプリの活用は紙の削減にもつながるため、今後も活用していきます。 ・町内会・自治会向けの出前講座は、燃やせるごみに含まれる古紙や容器包装プラスチックが多い現状をふまえ、“資源となるものを正しく分別することでごみを削減することができる”をテーマに実施しました。容器包装プラスチック分別収集対象地区では、容器包装プラスチックの分別率向上のため、実物を掲示したパネルを使いながら具体的な例をあげて説明しました。 （出前講座実施回数 小学校36回、幼稚園・保育園60回、学童保育10回、町内会・自治会9回、中学校4回、高校2回、子ども食堂1回） ・イベント出展は、来場者が多いイベントを中心に、スケルトンごみ収集車「みえるくん」を使用し、「ごみ収集体験」、生ごみの水分をできるだけ絞りごみ量を減らす「生ごみの水切り体験」、指定収集袋の中から小型充電式家電やバッテリーなど火災につながる対象物を正しく分別して資源化する「ごみ袋のサイズダウンチャレンジ」を行いました。体験を通して、ごみの分別がごみの減量や火災の予防につながることを周知しました。11月以降のイベントでは、2026年度に予定している容器包装プラスチック全市収集開始に向け、容器包装プラスチックの分別についても啓発を行いました。 ・主催イベントは、11月に町田市バイオエネルギーセンターで実施し、3R市民リーダー及び都立町田総合高校の生徒と協力して、分別についての啓発を行いました。 ・キャンペーンは、新たな取組みとして、都立高校の探求事業を活用して学生と一緒にキャンペーン活動を実施しました。都立山崎高校では7月にマイボトルキャンペーンとして、マイボトルを持ち歩くことが少ない高校生に向けて、使い捨てプラスチックの削減の周知を生徒と一緒に行いました。都立町田総合高校では、体験活動として市が実施する各種キャンペーンに参加していただき、ごみの減量について周知を一緒に行いました。 ・町田市バイオエネルギーセンターでのイベントの出展では、4月・7月・8月・12月に運営事業者であるSPCと協力して、誰にでもできる簡単な3Rの行動事例を紹介しながら、使い捨てプラスチックの削減や小型充電式家電・バッテリー等の適正排出について啓発を行いました。 ・オンライン講座は、ごみ減量サポーター研修会に出席できなかった方に向けてオンラインで視聴できるようYouTubeで限定配信をしました。		

【2025年度の指標と目標】

【2025年度の実業計画】

指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度の取組方針・内容
出前講座	80回		保育園・幼稚園の出前講座は、啓発効果を高めるため保護者参観の実施条件を設け、申込件数が減少した分を町内会・自治会の出前講座や説明会に注力します。また、容器包装プラスチック全市収集開始に向けて効果的に周知できる内容に変更します。
イベント出展	30回		容器包装プラスチック全市収集開始に向けて、効果的に周知できる内容で実施します。
主催イベント実施	1回		容器包装プラスチック全市収集開始に向けて、効果的に周知できる内容をメインに実施します。
キャンペーン実施	14回		季節や時期に合わせた内容のキャンペーンを年間を通じて実施します。
町田市バイオエネルギーセンターで実施されるイベントへの出展	3回		事業者と協働して効果的なごみ減量・資源化の啓発を実施します。
オンライン講座	2回		ごみ減量サポーター等に向けてオンラインで視聴できるよう講座を実施します。

実施手法	推進主体
1-1-2 担い手づくりに向けた取組の推進	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2024年度目標	2024年度実績	2024年度取組方針・内容
ごみ減量サポーターの活動支援	5回	5回	ごみ減量サポーターがサポーターとしての活動内容について理解し、ごみの減量・資源化の情報や周知が必要な情報を町内会・自治会内等で回覧や配布していただけるように働きかける必要があります。 2023年度の活動報告書とアンケートの結果を踏まえて、2024年度はごみ減量サポーターの市民への認知度向上を図り、ごみ減量サポーターがより誇りをもって活動できるよう動機づけを図ります。また、容器包装プラスチックの市全域での分別収集開始に向け、ごみ減量サポーターに分別収集に関する案内等の送付と周知依頼を行い、分別収集開始の市民周知の一助となるよう講じます。
町田市3R市民リーダーの活動支援	6回	6回	イベントに参加してもらうだけでなく、企画の段階から参加してもらい、自主性を持って啓発活動ができるように支援します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
3Rリーダーへの活動支援として、ごみ減量サポーターと連携した活動について考えてよいのではないか。	3R市民リーダーには活動の企画段階から参加してもらいたいと考えています。また、町内会・自治会の出前講座においてごみ減量サポーターと連携した活動を検討してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
ごみ減量サポーターの活動支援として、以下の取組を実施しました。 ・7月：全体連絡会を実施し、町田市のごみの現状とごみ減量サポーターとしての活動方法について重点的に説明を行いました。また、ごみ減量サポーターが地域の方へ向けて施設見学会を企画する際の参考にさせていただくため、全体連絡会後に町田市バイオエネルギーセンターの施設見学会を実施しました。 ・7月～8月：火災事故防止の啓発について7月の全体連絡会で説明したところ、ごみ減量サポーターから「地域の方へ周知したい」という旨の申し出があったため、希望者へ小型充電式電子チラシを送付しました。 ・9月：サポーターの認知度向上のため、ごみ減量情報誌ごみナクナーレ9月15号に、サポーターの具体的な活動紹介を掲載しました。また、サポーターの活動意欲向上のため、全サポーターへ送付しました。 ・11月：ごみ減量サポーター研修会として、プラスチックごみの減量をテーマに講演会を実施したところ、半数以上の方に出席いただきました。また、12月から2月にかけて研修会の動画をごみ減量サポーター限定で配信しました。 ・ごみ減量サポーターから新たにリサイクル広場の開催要望があったため、11月に西木曽自治会、3月に三輪町第一住宅自治会の体験リサイクル広場を実施しました。 ・ごみ減量サポーターの活動支援に取り組んだ結果、サポーターから町内会・自治会のイベントでの3R公開講座や出前講座の依頼がありました。 3R市民リーダーの活動支援として、以下の取組を実施しました。 ・8月：町田市バイオエネルギーセンターで実施したイベント「3Rまなびフェスタ」で、ごみの分別と資源化を啓発する「分別つりゲーム」のブースを出展し3名の3R市民リーダーで運営するように調整しました（イベントは台風接近の影響により中止）。 ・11月：町田市バイオエネルギーセンターで実施した3R推進係主催のイベントで啓発ブースの出展を行い、都立町田総合高校の探究授業の体験活動としてイベントに参加した生徒とともに5名の3R市民リーダーによる運営を行いました。 ・12月：町田市バイオエネルギーセンターで実施したイベント「3Rまなびフェスタ」で、ごみの分別と資源化を啓発する「分別つりゲーム」「マイボトルキャンペーン」「水切りキャンペーン」「ごみ袋サイズダウンキャンペーン」のブースを出展し、都立町田総合高校の探究授業の体験活動としてイベントに参加した生徒とともに2名の3R市民リーダーで運営を行いました。 ・1月：自主性をもって啓発活動を行ってもらうため、容器包装プラスチックの市全域での分別収集開始に向けた企画会議に3名の3R市民リーダーに参加してもらい、効果的な啓発方法を共同で検討しました。 ・3月：まちだEco to フェスタ2025で、ごみの分別と資源化を啓発する「分別つりゲーム」のブースを出展し、5名の3R市民リーダーで運営しました。2026年度から市全域で行われる容器包装プラスチックの分別収集開始の周知し、資源化の啓発を実施しました。 ・3月：さくらまつり2025で、名の3R市民リーダーで容器包装プラスチックの市全域での分別収集開始に向けた周知を行いました。		

【2025年度の指標と目標】

【2025年度の事業計画】

指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度取組方針・内容
ごみ減量サポーターの活動支援	5回		ごみ減量サポーターがサポーターとしての活動内容について理解し、ごみの減量・資源化等の必要な情報を町内会・自治会内等で周知していただけるように働きかける必要があります。 ごみ減量サポーターの市民への認知度向上を図り、ごみ減量サポーターがより誇りをもって活動できるよう動機づけを図ります。また、容器包装プラスチックの市全域での分別収集開始に向け、ごみ減量サポーターに分別収集に関する案内等の送付と周知依頼を行い、分別収集開始の市民周知の一助となるよう講じます。 容器包装プラスチックの市全域での分別収集開始に向け、ごみ減量サポーターと連携して、町内会・自治会での説明会を実施し周知・啓発を行います。
町田市3R市民リーダーの活動支援	6回		容器包装プラスチックの市全域での分別収集開始に向け、3R市民リーダー主体で周知方法の検討を行い、各種イベント等で周知します。

実施手法	推進主体
1-2-1 飲食店・スーパー・百貨店等の事業者との協働による取組の推進	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2024年度目標	2024年度実績	2024年度取組方針・内容
リサイクル推進店と協働して行うキャンペーンの展開	6回	6回	引き続き、リサイクル推進店と協働した効果的な食品ロス削減のキャンペーンや容器包装プラスチック分別回収に向けた周知等の手法について検討していきます。
食べきり協力店制度の認知	随時	随時	新たに登録いただいた店舗を中心に市民の方々に認知していただけるようSNSやごみ情報誌「ごみナクナーレ」で周知します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
食べきり協力店側の具体的なメリットを明確にしてください。	食品ロス削減に貢献している店舗として認知されることでお店のイメージアップにつながります。引き続き、認知拡大に向けた周知方法を検討してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
・10月の食品ロス削減月間で市内5か所の店舗と協働し、食品ロス削減キャンペーンを行い、商品の手前どりやフードシェアリングサービス「TABETE」の紹介等を掲載した啓発チラシや水切りネットの配布を行いました。また、店舗へは、手前取りPOPやポスターを配布し、商品棚などへの掲示を依頼しました。 ・年末年始には「まちだ☆おいしい食べきりキャンペーン」を行い、町田商工会議所・町田市商店会・市内公共施設・リサイクル推進店等で食べきりを呼びかけるポスターの掲示や、神奈川中央交通・市民バス・コミュニティバスへのポスター掲示や神奈川中央交通バス車内での食品ロス削減啓発動画（15秒）の放映を行いました。 ・食べきり協力店の制度の認知度向上のため、新規に登録いただいた2店舗を、X（旧Twitter）、Instagram、YouTubeで紹介しました。 ・食べきり協力店及びフードシェアリングサービス「TABETE」について、9月5日に商工会議所の食品・飲食業部会の役員会議で事業概要の説明を行い、市内の飲食店等への周知を依頼しました。 ・9月25日、2月26日、3月14日に開催された保健所生活衛生課主催の食品衛生実務講習会で、食べきり協力店やフードシェアリングサービス「TABETE」を紹介しました。	

【2025年度の指標と目標】

【2025年度事業計画】

指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度取組方針・内容
リサイクル推進店と協働して行うキャンペーンの展開	6回		引き続きリサイクル推進店と協働した効果的な食品ロス削減のキャンペーンや容器包装プラスチック分別回収に向けた周知等を行います。
食べきり協力店制度の認知	随時		他自治体の取り組みを調査するとともに、新たに登録いただいた店舗を中心に市民の方々に認知していただく方法を検討します。

実施手法	推進主体
1-2-2 スポーツチーム・教育機関等団体との協働による取組の推進	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2024年度目標	2024年度実績	2024年度取組方針・内容
ホームタウンチームと連携した取組	15回	14回	引き続き古紙回収会の毎月1回の定期開催や、マイボトルキャンペーンなどホームタウンチームと連携して取り組みます。
大学と連携した取組	2回	2回	若い世代に対するごみ減量意識の向上に向け、リチウムイオン電池や容器包装プラスチック等の分別の啓発について、連携して取り組みを進めていきます。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
大学との連携で、学生に対する分別の啓発を積極的に進めて下さい。	若い世代に対するごみ減量意識の向上に向け、大学（学生）と連携し、啓発方法を検討してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
・毎月第3土曜日にバイエネ君でF C町田ゼルビアの古紙回収会を行いました。 ・10月と1月にペスカドーラ町田ホームゲームにてマイボトルキャンペーンを実施しました。F C町田ゼルビアのホームゲームで実施を打診したマイボトルキャンペーンについては、ホームゲーム開催とキャンペーンが行える出展ブースの調整ができず実施には至りませんでした。 ・2026年度に予定している容器包装プラスチック全市収集に向けて、玉川大学と連携し、学生にチラシやロゴ、動画等の作成を依頼し、3月に説明会や全戸配布用のチラシ等のデザインを発表することができました。 ・5月に桜美林大学リベラルアーツ学群のゼミの学生（約200人）に対し、町田市バイオエネルギーセンターの施設見学を行ないました。火災の原因となるリチウムイオン電池の分別、ごみの減量や資源化について、若い世代に周知・啓発しました。		

【2025年度の指標と目標】

【2025年度事業計画】

指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度取組方針・内容
ホームタウンチームと連携した取組	8回		引き続き古紙回収会を6回行い、マイボトルキャンペーンなどホームタウンチームと連携して取り組みます。
大学と連携した取組	2回		若い世代に対するごみ減量意識の向上に向け、リチウムイオン電池や容器包装プラスチック等の分別の啓発について、連携して取り組みを進めていきます。学園祭に協働で出店するなど、行政の情報が届きづらい若い世代に、効果的な周知方法を検討します。

実施手法	推進主体
1-3-1 地域が行う取組の支援	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2024年度目標	2024年度実績	2024年度取組方針・内容
地域リサイクル広場の推進	4回	5回	ごみ減量サポーターの活動やリサイクル広場のパンフレットを通じて、地域リサイクル広場の新規募集について周知し、開催団体の増加を図ります。新規申込団体には、体験リサイクル広場等を通じて、安心して自主的な開催が出来るよう支援していきます。
生ごみ資源化団体の支援	見直し	検討	協定締結から年月が経過していることから、協定に基づく支援等について、団体と話し合いのうえ、協定書の見直しを行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
該当なし	

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
・地域リサイクル広場の推進のため、新規開催団体の増加を図るとともに、既存の開催団体が安心してリサイクル広場の開催が出来るよう、次の活動支援を実施しました。 7月のごみ減量サポーター全体連絡会で、開催団体の活動をごみ減量サポーターの好事例として紹介しました。 11月と3月に、ごみ減量サポーターを通じて新規開催を希望する団体の申し出があったため、開催にあたっての連絡調整やチラシの作成を行い、体験リサイクル広場を開催しました。 1年間を通じて、地域リサイクル広場（不定期開催）の協定書を結んでいる9団体に対し、チラシの作成、開催にあたっての連絡調整、景品の調達、HPへの活動内容の掲載等の支援を行い、2024年度は計14回地域リサイクル広場を開催しました。 地域リサイクル広場（定期開催）の協定書を結んでいる2団体に対し、のぼり旗の作成、チラシの作成、開催にあたっての連絡調整、景品の調達、HPへの活動内容の掲載等の支援を行い、それぞれ毎週日曜日と、毎月第3日曜日に地域リサイクル広場を開催しました。 ・生ごみ資源化団体の支援を行うため、協定を締結している3団体に活動状況の聞き取りを行いました。うち支援依頼のあった1団体に対して、構成員を対象とした生ごみ処理機の基材購入希望者への申し込みチラシを作成しました。 ・協定書については、締結から10年経過（自動更新）しています。支援内容についての変更や既に独自で活動している団体との協定の必要性を検討しましたが、変更には至りませんでした。	

【2025年度の指標と目標】

【2025年度事業計画】

指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度取組方針・内容
地域リサイクル広場の開催支援の取組み種類数	4種類		ごみ減量サポーターの活動やリサイクル広場のパンフレットを通じて、地域リサイクル広場の新規募集について周知し開催団体の増加を図るとともに、協定書締結団体には、引き続き安心して自主的な地域リサイクル広場の開催が出来るよう支援していきます。
生ごみ資源化団体の支援	見直し		協定締結から年月が経過していることから、協定に基づく支援等について、団体と話し合いのうえ、協定書の見直しを行います。

実施手法	推進主体
1-3-2 事業者が行う取組の支援	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2024年度目標	2024年度実績	2024年度取組方針・内容
フードドライブの周知	周知	49回	引続き大規模事業所立入り時に、有用な情報を提供できるよう周知していきます。
企業CSRの周知	周知	688回 (優良事例配布数 679)	企業CSRについては、3R賞を受賞した団体の取り組みを周知するとともに、他に良い取り組みをしている事業者の情報を収集してSNSなどで周知します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
該当なし	

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
・事業所におけるごみ減量の一環として、大規模事業所の立入り時にフードドライブの周知を随時行いました。周知を行った多くの事業所で廃棄しない取り組みを実践されており、社会福祉協議会への寄付のみではなく、食堂での事前利用者数把握による食材調達調整や近隣の福祉施設への寄付など、食品ロスの取り組みが浸透してきていることがわかりました。 ・2023年度まちだ3R賞受賞事業所の取り組みをホームページや広報まちだ4/15号で周知するとともに、今後の取り組みの参考として、事業系ごみの減量・資源化の取り組み優良事例をまとめたチラシを7月から大規模事業所立入り時や少量排出事業者登録時に配布しました。 ・市内事業所の取り組みである「SDGs：和洋食器のリユース販売」（能登半島地震復興支援）について、5月にX（旧Twitter）、Instagramで紹介しました。 ・9月24日にまちだ2023年度3R賞受賞事業所と懇談会を実施したところ、受賞した9事業所中、3事業所の参加がありました。受賞事業所のインセンティブや今後のまちだ3R賞などが話題としてあがり、「毎年度、申請し審査を受けることは、事業所として特に問題はない」、「受賞することで町田市のホームページや広報などに取り上げてもらえることがインセンティブになる」との意見をいただきました。 ・9月25日、2月26日、3月14日に開催された保健所生活衛生課主催の食品衛生実務講習会で、事業系ごみの減量・資源化の取り組み優良事例をまとめたチラシを配付しました。 ・新たにまちだ2023年度3R受賞事業者をPRするポスターを作成し、受賞事業所での掲示を依頼しました。 ・11月21日に開催された事業系一般廃棄物講習会で、事業系ごみの減量・資源化の取り組み優良事例をまとめたチラシを配付しました。（110名出席） ・2023年度まちだ3R賞受賞事業所の取り組み事例をX（旧Twitter）、Instagramで紹介しました。（8回）	

【2025年度の指標と目標】

【2025年度事業計画】

指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度取組方針・内容
大規模事業所へのフードドライブの周知	25回		引続き大規模事業所立入り時に、有用な情報を提供できるよう周知していきます。
事業所の優良事例及びCSRの周知	600回		企業CSRについては、3R賞を受賞した団体の取り組みを周知するとともに、他に良い取り組みをしている事業者の情報を収集してSNSなどで周知します。

実施手法	推進主体
1-3-3 各種情報ツールを活用した情報発信	環境政策課 ごみ収集課

【2024年度の指標と目標】

【2024年度の事業計画】

指標	2024年度目標	2024年度実績	2024年度の取組方針・内容
SNS等による情報発信	210回	374回 (政策174+収集200)	市民の方々がごみの減量・資源化について、具体的な方法や身近な内容等、関心を持てるような内容の発信を引き続き行います。 2023年度は、市民から応募された「もったいないことしま川柳」について、ごみ減量・資源化のコメントを添えて1件ずつSNSで紹介していましたが、投稿が多くなりすぎてしまい、他の情報が埋もれてしまったため、内容別に分類してまとめて投稿するなどより効果的な発信となるよう方法を見直します。
まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」発行	2回	2回	市民の方々に「紙面を手にとってもらえること」を意識した紙面構成を図ります。ごみの減量・資源化の記事に加え、その時々々の環境行政に応じた情報を伝えられるよう柔軟な紙面作成をいたします。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
SNSの情報発信の回数を増やし、多くの人に情報を届けようとする点は非常に評価できる。今後は閲覧数等の分析なども行い、発信した情報がどの程度届いているのか等についても、検討してもよいのではないかと思います。	S N Sの閲覧数やフォロワー数を増やすため、どのような情報に対して閲覧数が多いのか等を確認し、情報の発信内容を工夫していきます。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
・ 配信内容を取捨選択したため、昨年度の上半期よりも情報発信数が少なくなりましたが、1投稿当たりの閲覧数は、平均で昨年度の1.8倍の352回となり、新規フォロワー数は80人増加しました。（配信回数 Instagram78回、X78回、ごみ分別アプリ16回、YouTube×2回） ・ ごみ情報誌「ごみナクナーレ」9月15日号で、廃棄物減量等推進員（ごみ減量サポーター）の紹介を行い、制度を周知するとともに、推進員の活動意識向上を図りました。また、同号で町田市ごみ分別アプリを特集した結果、発行月は、町田市ごみ分別アプリのリリース当初の月間ダウンロード数（2,199回）を上回る過去最多の月間ダウンロード数（2,332回）となりました。 ・ 1月15日号では、容器包装プラスチック分別収集の全市展開や、適切な分別による火災防止について記事を掲載し、その時々々の情勢に応じた環境行政の情報の周知を図りました。また、「ごみの減らし方 まるわかり本」を特集した結果、「ごみの減らし方 まるわかり本」を100部ずつ布置した市民センターや駅前連絡所へ来庁した多くの市民の方に手に取っていただいたため、2か所の市民センター等では在庫がなくなり追加配布しました。 ・ 今年度から問合せの多い品目や火災の原因となるスプレー缶、モバイルバッテリー、ハンディファンなどの出し方の周知と悪天候時のごみ収集に関する情報をSNSで発信しました。（配信回数 Instagram100回、X(旧Twitter)100回）		

【2025年度の指標と目標】

【2025年度の事業計画】

指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度の取組方針・内容
SNS等による情報発信	360回 (政策160+収集200)		これまでの周知内容に加えて、容器包装プラスチック収集の市全域化に関する情報を発信します。 市民の方々がごみの減量・資源化について、具体的な方法や身近な内容等、関心を持てるような内容の発信を行います。
まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」発行	2回		市民の方々に「記事を読んでもらえること」を意識した紙面構成を図ります。ごみの減量・資源化の記事に加え、その時々々の環境行政に応じた情報を伝えられるよう柔軟な紙面作成をいたします。

取組施策	推進主体
2-1-1 生ごみの発生抑制	環境政策課

【指標と目標値】

指標①-1	食品ロスの削減を総合的に推進する取組					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		2回	2回	2回	2回	2回
実績値	—	2回	2回	5回	7回	
指標①-2	補助金を申請した家庭用生ごみ処理機の利用台数（累計）					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		1,200台	1,400台	1,600台	2,100台	2,400台
実績値	773台	1,278台	1,525台	1,825台	2,123台	

【2024年度の事業計画】

2024年度取組方針・内容
①-1・家庭で発生した食品ロスの種類や量などを一定期間記録することで、家庭で発生する食品ロスの量を見える化し、食品ロスがなくなった場合のCO2削減量や捨ててしまった食材を購入するのに掛かった食費の計算ができる「食品ロス削減ダイアリー」を作成し配布いたします。 ①-1・これまで啓発が行き届いていない若年層に向けて、食品ロスの削減やプラスチックの資源循環等を啓発するイベントを実施します。 ①-1・引き続き、食品ロス削減について、バスでのデジタルサイネージでの広告を行います。 ①-2・家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度について、生ごみ処理機取扱い店舗の情報を収集し、引き続き、周知協力店を増やしてPRを強化することで、家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度の利用を推進します。 ①-2・生ごみ処理機等購入費補助制度利用者からいただいたアンケートの結果によると、購入者の多くが電動式を購入し、生ごみを乾燥・減量させて、燃やせるごみとして出しています。生ごみ処理で出た一次生成物を燃やせるごみに出さずに、市で回収及びたい肥化する方法を引き続き検討します。 ①-2・家庭用生ごみ処理機やダンボールコンポストでどのぐらいごみの減量になるか数値化し、引き続きホームページなどで公表します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
ごみの総量は重量であらわされている。この中でも家庭系が約6割を占める。総量を手取り早く減らすには家庭系の量を減らすことで、水切りと家庭用生ごみ処理機が効果がある。まずは、この対策に徹底的に力を注ぐのも効果があると思われる。	水切りキャンペーンや家庭用生ごみ処理機等購入費補助について、引き続き実施してまいります。いただいたご意見を参考にごみの減量について対策を検討してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①-1・ゲーム作品とコラボレーションした環境イベント「町田ECO toゴー・ラウンド！」を実施し、イベント内で「食品ロスダイアリー」、「食品ロス削減レシピ」の作成・配布を行いました。レシピ掲載料理を作ってSNSに投稿するキャンペーンを実施したところ、約150件の投稿がありました。本イベントは町田薬師池公園四季彩の杜西園・薬師池公園・リス園で2024年11月15日から12月1日の期間に開催し、のべ約5.7万人の来場がありました。 ①-1・食べきり協力店及びフードシェアリングサービス「TABETE」について、9月5日に商工会議所の食品・飲食業部会の役員会議で事業概要の説明を行い、市内の飲食店等への周知を依頼しました。 ①-1・フードドライブの市内施設での常設窓口拡充のため、12月3日から忠生市民センターで新たな受付窓口を開設しました。また、年末年始で余った食料をフードドライブに持ち寄っていただけよう、12月1日号の広報まちだで周知を行いました。その結果、すべてのフードドライブ窓口に寄付された食品は1,005kgとなりました。（2023年度実績：市役所・町田市バイオエネルギーセンターへの寄付540kg） ①-1・7月に開催された保健予防課主催の親子向け食体験事業（地元野菜を使った料理教室等）で、紙芝居やクイズを交えた食品ロス削減の講話を行いました。 ①-1・9月13日から1か月間、中央図書館4階の展示コーナーで食品ロス削減に関する展示を実施しました。 ①-1・10月の食品ロス削減月間では市内公共施設、飲食店やスーパー等で食品ロス削減ポスターの掲示、スーパー店頭にて食品ロス削減を啓発する「まちだ☆おいしい食べきりキャンペーン」、市庁舎イベントスタジオにて食品ロス削減に関する展示、市民フォーラムにて使い切り料理教室を実施しました。 ①-1・12月から1月の期間に、家庭や飲食店で忘・新年会での作りすぎや食べ残しの削減を呼びかける動画を神奈川中央交通バス車内のデジタルサイネージにて放映しました。併せて、神奈川中央交通や市民バス、コミュニティバス車内でポスター掲示を行いました。 ①-2・家庭用生ごみ処理機の補助金について、298台の申請があり、累計申請台数は2,123台となっています。多くの申請があったため、10月10日の申請分まで補助金予算額に達しました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度取組方針・内容
①-1・フードシェアリングサービス「TABETE」の登録者を増やすため、イベント等で登録キャンペーンを行います。 ①-1・2023年度に策定した「町田市食品ロス削減推進計画」について、国の「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」が改定され、削減目標が上方修正されたこと踏まえて、「（仮称）第2次町田市食品ロス削減推進計画」を策定いたします。 ①-1・10月の食品ロス削減月間から年末年始の期間を通して、食べきりキャンペーンでは市内公共施設、飲食店やスーパー等で食品ロス削減ポスターの掲示し、スーパー店頭にて食品ロス削減を啓発する「まちだ☆おいしい食べきりキャンペーン」や使い切り料理教室を実施します。 ①-2・2024年度に家庭用生ごみ処理機等購入費補助を受けられた方へのアンケートから、どのぐらいごみの減量になったか、家庭用生ごみ処理機等を利用したの好事例等、市民に有益な情報をホームページやSNSで公表します。 ①-2・家庭用生ごみ処理機等購入費補助金について、効果検証を行い、今後の補助制度の在り方を検討します。

取組施策	推進主体
2-2-1 プラスチックごみの発生抑制	環境政策課

【指標と目標値】

指標①-1		使い捨てプラスチック代替品に関する情報発信回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
目標値		5 回	10回	13回	17回	20回	
実績値	—	5 回	5回	10回	9回		
指標①-2		マイボトルが利用できる店舗数（累計）					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
目標値		32店	35店	40店	45店	50店	
実績値	31店	31店	31店	29店	29店 (公共施設へのマイボ トル給水器設置を含め ると46か所)		

【2024年度の事業計画】

2024年度取組方針・内容
①-1・使い捨てプラスチック代替品に関する情報発信を行います。 ①-2・マイボトルを利用できる店舗については、マイボトルに提供いただける店舗だけでなく、給水スポットの情報提供も合わせて行い、マイボトルの利用促進につながる事業所等を周知していきます。 ①-2・マイボトルの利用促進およびペットボトル等のプラスチックごみの削減を推進するため、マイボトル専用給水器の使用量および温室効果ガス削減量をホームページで公開し、給水器使用による削減効果の周知を図ります。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
マイボトルが利用できる店舗や公共施設だけでなく、市内の公共性の高い民間施設（鉄道、バス、関連）などへの給水スポットの拡充に向けた働きかけを増やすことも重要であるとする。	各事業者との情報交換や事例研究をしながら、公共性の高い民間施設への給水スポットの拡充を研究してまいります。また、市民周知の際は、マイボトルOK店だけではなく、給水スポットの情報提供も検討してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①-1・プラスチック製品の代替品に関する周知として、山崎高校の生徒と実施したマイボトルキャンペーンやベスカドーラ町田のホームゲームで実施したマイボトルキャンペーンなどをSNSで9回発信しました。 ・11月16日にプラスチックとの付き合い方をテーマに親子対象の講座を開催しました。「プラスチックごみ削減をテーマにした学習会」だけでなく、「オリジナルマイボトルとマイバッグの工作会」や「リレーセンターみなみの施設見学会」など、実際に見て・体験していただくプログラムを組み込んだ結果、開催後のアンケートでは参加者の約97%の方から満足したと回答をいただきました。 ①-2・マイボトルOK店の新規開拓に向けて、マイボトル持参により割引が受けられる一部のコンビニエンスストアへ協力の打診を行いましたが、現在は行っておらず登録は困難と回答がありました。 ①-2・マイボトル専用給水器を新たに保健所中町庁舎（5月）、町田市立中央図書館（7月）、わくわくプラザ町田（8月）及び鶴川エリア中学校給食センター（1月）へ給水器を設置し、市内公共施設への設置は17台となりました（うち2台について、施設の改修工事により使用停止中）。その結果、2024年度の使用量（推計値）は、約100,103リットル（500mlペットボトル約20万本分）となり、ペットボトルの代わりにマイボトルを使用したことによるCO2削減量は21t-CO2でした。（2023年度実績値 約64,000リットル、500mlペットボトル約12.8万本分） ①-2・マイボトルが利用できる店舗について、新型コロナウイルス感染症の流行以降、非接触の推奨等が要因となり、新たにマイボトルOK店を増やすことが困難となっています。代わりに公共施設へマイボトル専用給水器の設置を進めており、マイボトルを使用できる場所は、合わせて46か所になりました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度取組方針・内容
①-1・引き続き使い捨てプラスチック代替品に関する情報発信を行います。 ①-2・マイボトルを利用できる店舗については、マイボトルに提供いただける店舗だけでなく、給水スポットの情報提供も合わせて行い、マイボトルの利用促進につながる事業所等を周知していきます。 ①-2・マイボトルの利用促進およびペットボトル等のプラスチックごみの削減を推進するため、マイボトル専用給水器の使用量および温室効果ガス削減量をホームページで公開し、給水器使用による削減効果の周知を図ります。

取組施策	推進主体
2-2-2 プラスチックごみの資源化の推進	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	容器包装プラスチック分別協力率（収集地域）					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		27%	30%	33%	36%	40%
実績値	24%	37%	36%	35%	35%	

【2024年度の事業計画】

2024年度取組方針・内容
①・2026年度からの容器包装プラスチックの市全域での収集・資源化に向けて、効率的な運搬方法の検討や市民向け周知啓発の準備を進めます。 ①・これまで啓発が行き届いていない若年層に向けて、食品ロスの削減やプラスチックの資源循環等を啓発するイベントを実施します。 ①・JR横浜線以南の地域で容器包装プラスチックの中間処理を実施しているリレーセンターみなみなどの施設見学や講座等を行い、容器包装プラスチックをはじめとしたプラスチックごみの分別と資源化について、市民への啓発を行います。 ①・2026年度からの容器包装プラスチックの市全域での収集・資源化の開始に向けて、市民に対し、より効果的な周知ができるよう出前講座やSNSなどでの発信を強化します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
2026年度より市全域での実施される、容器包装プラスチックの収集・資源化の周知啓発を徹底して下さい。	2026年度に開始する容器包装プラスチックの全市分別収集開始に向け、町内会・自治会への説明会を始めとして様々な手段で周知・啓発を行ってまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①・ゲーム作品とコラボレーションした環境イベント「町田ECO toゴー・ラウンド!」を実施しました。イベントでは、プラスチックごみ資源化の啓発として、ごみの分別意識向上を目的としたごみステーションの設置やマイボトルの普及啓発を目的としたマイボトルキャンペーンをしました。本イベントは町田薬師池公園四季彩の杜西園・薬師池公園・リス園で2024年11月15日から12月1日の期間に開催し、のべ約5.7万人の来場がありました。 ①・容器包装プラスチック全市収集開始の効果的な周知啓発のため、部内で検討組織を立ち上げ、必要な作業の洗い出しや各課の役割分担、実施スケジュールの作成、町内会・自治会への説明会の実施方法などの検討を行いました。また、町内会・自治会への説明会に向けては、連合会や各地区の役員会に出席し告知を行ったうえで、各町内会・自治会に説明会開催についての希望調査を行いました。 ①・容器包装プラスチックについて、効果的な周知が行えるように、玉川大学と協働で若い世代（学生）の意見を取り入れた啓発内容や啓発チラシの検討を行い、周知開始後の啓発活動に向けた準備を進めました。啓発ポスターとチラシのデザインは、3月に実施された「Eco to フェスタ」で発表しました。 ①・11月16日にプラスチックとの付き合い方をテーマに親子対象の講座を開催しました。「プラスチックごみ削減をテーマにした学習会」だけでなく、「オリジナルマイボトルとマイバッグの工作会」や「リレーセンターみなみの施設見学会」など、実際に見て・体験していただくプログラムを組み込んだ結果、開催後のアンケートでは参加者の約97%の方から満足したと回答をいただきました。 ①・2026年4月から容器包装プラスチックの分別回収が開始することとあわせて、分別の対象となるものや、タッパー等の製品プラスチックなど間違いやすい非対象物について、写真やイラストを用いてSNSで発信を行いました。 ①・使い捨てコンタクトレンズの空ケース及び使用済みプラスチック製ペン等の拠点回収について、環境広報紙「ECOまちだ」6月15日号で2023年度実績を掲載して周知した結果、前年度を上回る量の使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収することができました。【コンタクトレンズの空ケース：165kg(2023年度)→288kg(2024年度)、プラスチック製ペン等：103kg(2024年度実績)】		

【2025年度の事業計画】

2025年度取組方針・内容
①・2024年度に引き続き玉川大学との連携を継続し、学園祭に協働で出店するなど、行政の情報が届きづらい若い世代に、効果的な周知方法を検討します。 ①・2026年度からの容器包装プラスチックの市全域での収集・資源化に向けて、町内会・自治会向け説明会や、市民センター等での説明会を開催いたします。また、「広報まちだ」や「環境広報紙ECOまちだ」、ごみ分別アプリ、SNSなどの媒体を通して、周知啓発を行います。

取組施策	推進主体
2-3-1 リデュース・リユースの推進	環境政策課

【指標と目標値】

指標①-1	リデュースに関する情報提供回数					
年 度	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		4回	8回	12回	16回	20回
実績値	2回	4回	9回	22回	8回	
指標①-2	リユースにつながる取組の実施回数					
年 度	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		3回	4回	6回	8回	10回
実績値	3回	13回	14回	12回	7回	
指標①-3	粗大ごみのうち再生販売した重量					
年 度	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		75 t	150 t	100 t	125 t	150 t
実績値	74t (5,767点)	57t (4,735点)	76t (6,119点)	83t (6,065点)	87t (6,324点)	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①-1・計画的にテーマ別にSNS、YouTube配信を行います。 ①-2・子どもリユース品事業の実施や「まちエコフリーマーケット」実施の支援を引き続き行います。 ①-3・粗大ごみ再生販売については、引き続き広報誌やジモティー掲示板を利用して周知を進めます。また、更なるリユースの推進を図るため、清掃工場に持ち込まれる前にリユースする仕組みとして、不要品一括査定サイト「おいくら」の活用を積極的に市民に周知していきます。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
ジモティーとの連携で再販量が増えたこと大きな1歩だと思います。市とジモティーの販売促進次第で来期の目標125トンを達成できる。	引き続き、株式会社ジモティーをはじめ、企業や地域団体との連携を強化していきます。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①-1・2024年度に新たに認定した食べきり協力店2店舗や、9月13日から27日間実施した図書館の特集コーナーについてなど、食品ロスの削減に関する情報をSNSで8回発信しました。 ①-2・9月、11月、3月にまちだエコライフ推進公社が実施した「まちエコフリーマーケット」について、開催に関して広報やHPで実施案内を行いました。来場者はあわせて約1,200名となり、246kgの洋服やベビー用品等がリユースされました。 ①-2・市民へリユースの取組を紹介するため、不要品一括査定サイト「おいくら」について、環境広報誌「ECOまちだ」（6月15日号）に掲載しました。町田市ホームページからの「おいくら」への依頼数は月平均150件あり、依頼商品数は月平均350点と多くの市民が活用しています。 ①-2・12月と2月に計14日間のベビー用リユース品回収会を行い、1月と3月に配布会を計2回行いました。回収数は676点、1月末時点でのリユース率は91.9%、リユースされた量は2,190kgでした。（暫定） ①-3・粗大ごみの再生販売の2024年度実績は、販売点数6,324点、販売重量は約87 tでした。2023年度の同期間に比べ販売点数は248点増加し、販売重量は約4t増えています。また、ジモティー掲示板への出品掲載は4,830点で、そのうち4,264点（約88%）が販売されています。ジモティー掲示板を活用することで店舗（リユースショップまちエコ）でどのような品物が販売されているかを来店せずに確認できることもあり、高校生や大学生など若年層の来店が増えました。 ①-3・粗大ごみの減量を推進するため、3月に(株)ジモティーと覚書を締結し、まだ使える家具・家電・子ども用品・レジャー用品・衣類・食器・本等を持ち込むことができるリユース拠点「ジモティースポット町田」の開設に向けた調整を行いました（2025年4月1日開設）。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①-1・引き続き図書館の特集コーナーの設置やSNSを通して食品ロス削減に関する情報を発信します。 ①-2・(株)ジモティーと協働で開設のリユース拠点「ジモティースポット町田」を周知し、市民にリユース意識の啓発を行います。また、「まちエコフリーマーケット」実施の支援を引き続き行います。 ①-3・「ジモティースポット町田」の開設に伴う粗大ごみ減量の効果を検証していきます。

取組施策	推進主体
2-3-2 リサイクルの推進	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	雑がみの分別に関する情報提供回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		5回	10回	13回	17回	20回
実績値	5回	7回	13回	7回	15回	
指標②	リサイクル広場来場者数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		31,000人	32,000人	33,000人	34,000人	36,000人
実績値	30,329人 (104,178kg)	19,250人 (84,025kg)	25,904人 (94,831kg)	24,367人 (100,679kg)	27,500人 (100,191kg)	
指標③	小売店独自の店頭回収の情報提供回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		4回	8回	12回	16回	20回
実績値	-	0回	0回	2回	2回	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・リサイクルの推進を図るため、引き続き、各種媒体を活用して周知していきます。 ②・リサイクル広場の周知について、来場者を増やすため、リサイクル広場のパンフレットを新たに図書館や子どもセンターをはじめとした市内の公共施設に布置します。 ③・小売店独自の取組の情報収集方法について、リサイクル推進店の回収ボックス点検報告をもとに各店舗に確認を行い、利用促進を含め市民に情報提供します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
資源の効率的な利用を求められる時代でリサイクルは事業として進む一方、行政として回収を強化するのではなく、企業にサポートしてもらうことで市の運営の負担が減ると思います。地元企業と協力する方法を模索するのも必要。	現在、地元企業をはじめ、多数の企業に事業の協力をいただいております。引き続き、企業との連携強化を検討して行きます。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①リサイクルの推進を図るため、9月に発行した「ごみの減らし方 まるわかり本」を活用し、各種イベント、町内会・自治会向け出前講座、ごみ減量サポーター研修会で雑がみの分別などの周知啓発を実施しました。 ②リサイクル広場の周知のための新たな取り組みとして、5月から市民センターや図書館、子どもセンターなどの公共施設にて、12月から町田市バイオエネルギーセンター見学者に対して、リサイクル広場のパンフレットの配布を開始しました。また、7月にごみ減量サポーター全体連絡会でリサイクル広場の説明を行いました。その結果、リサイクル広場の来場者数は昨年度に比べて、約3,500人増加しました。 ③市民へ小売店独自の店頭回収の情報提供を行うため、リサイクル推進店の回収ボックス点検報告書から情報収集を予定していましたが、今年度から点検業務を行わなくなったため情報を得られず、市民に新たな情報を提供することができませんでした。リサイクル推進店以外の小売店独自の店頭回収等を調査し、廃食油の回収に関する情報提供を行いました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・リサイクルの推進を図るため、引き続き、各種媒体を活用して周知していきます。 ②・リサイクル広場の来場者を増やすため、リサイクル広場パンフレットを新たに小中学校の出前講座で児童に配布し、リサイクル広場のより一層の周知を図ります。 ③・小売店独自の取組の情報収集方法について、リサイクル推進店に登録している店舗等に確認を行い、利用促進を含め市民に情報提供します。

取組施策	推進主体
2-4-1 家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	検討の実施					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	検討完了
実績値	—	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・ごみの減量化と資源化率向上、ごみ処理費用負担の公平化のため、町田市では2005年より指定収集袋制による家庭系ごみの有料化を実施しています。社会情勢等を踏まえたごみ袋の価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
ごみ処理手数料の見直しの検討については、次年度の見直し完了に向けて、どの程度の進展具合なのか。	周辺自治体について情報の聞き取り等を行い、見直しをするかしないかを含めた判断をするための材料を収集しています。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①・周辺自治体の手数料について情報収集を行いました。多摩地域では全26市が有料化を導入しており、2024年度において料金改定を行った自治体はありません。そのため、26市平均のごみ処理手数料は1.79円/ℓで変更はなく、町田市の手数料1.6円/ℓは、平均と比較して安くなっています。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・ごみの減量化と資源化率向上、ごみ処理費用負担の公平化のため、町田市では2005年より指定収集袋制による家庭系ごみの有料化を実施しています。社会情勢等を踏まえたごみ袋の価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行い、手数料の見直しの検討を一度完了します。

取組施策	推進主体
3-1-1 適正排出に向けた取組の推進	環境政策課

【指標と目標値】

指標①-1	指導の回数（大規模事業所、搬入物検査に基づくもの等）					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		120 回	130 回	130 回	130 回	130 回
実績値	125 回	94回	75回	337回	221回	
指標①-2	講習会の回数（排出事業者向け、許可業者向け）					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		2回	2回	2回	2回	2回
実績値	2回	2回	3回	6回	5 回	

【2024年度の事業計画】

2024年度取組方針・内容
①-1・大規模事業所の立入検査を50事業所予定しており、廃棄物処理や資源化の状況について現状確認を行います。また、清掃工場内において、毎日内容物検査を実施し、収集業者からのヒアリングで不適正排出が認められた事業所に対して、電話による指導は即日、改善がみられない場合は適宜訪問指導を行います。 ①-2・内容物検査で不適正排出が認められた事業者に対して、事業系廃棄物の出し方を理解していただくために、直接訪問して廃棄物の出し方等について説明を行っていきます。また、一般廃棄物講習会や保健所主催の食品衛生実務講習会などにおいて、事業系ごみの適正排出に関する説明を行います。さらに、新たな取組として、インターネット等を活用したオンラインでの事業所向け講習会の開催を検討します。 ①-2・排出事業者、許可業者を対象とした講習会を実施します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
検査で不適正排出があった事業者への指導・啓発の強化をすべきではないか。	不適正排出事業所に対しての指導は随時電話にて行っており、改善されない場合には訪問による指導を行っております。また、コロナ前は搬入不適物があった場合には、許可業者に対して注意書や警告書の発行、ごみの持ち帰りや適正処理報告書の提出を求めておりました。今後は、それらの対応を検討してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
①-1・2月末時点で、49件の大規模事業所へ立入りを実施し、ごみの排出状況や資源化等の取り組みについて問題がないことを確認しました。 ①-1・昨今の社会的な動向やSDGSへの関心の高まりから、多くの中小規模事業所では適正排出に向けた取り組みを実践していますが、一般廃棄物と産業廃棄物、資源化物の分別の徹底がなされていない様子が見受けられるため、立入検査時の指導や清掃工場内での内容物検査を実施しました。不適正排出があった事業所について、即日電話での指導を行いましたが、直接訪問しての指導が必要な搬入はありませんでした。また、2019年度まで実施していた、内容物検査で搬入不適物が認められた許可業者への注意書や警告書の発行について再開することを決定しました。 ①-2・オンラインでの講習会開催に向け、事業者に関心を持ってもらえる内容の検討を行いました。引き続き内容や対象者の検討を行っていきます。 ①-2・9月25日、2月26日、3月14日に保健所生活衛生課主催の食品衛生実務講習会で、事業系廃棄物の適正排出・食品ロス削減に関する説明を行いました。（計497名参加） ①-2・2月5日に保健所生活衛生課主催の2024年度町田市ビル衛生管理講習会で、ごみの不適正排出による火災に関する説明を行いました。 ①-2・11月21日に排出事業者と一般廃棄物処理業許可業者合同で、事業系一般廃棄物講習会を実施しました。講習会には、合計110名が参加し、事業系一般廃棄物の減量及び再利用の促進、廃棄物の分別・適正処理、清掃工場における内容物検査等についての説明を行いました。講習会終了後に実施したアンケートでは、講習会の内容について概ねご理解いただけたことが確認できました。	

【2025年度の事業計画】

2025年度取組方針・内容
①-1・大規模事業所の立入検査を25事業所予定しており、廃棄物処理や資源化の状況について現状確認を行います。また、清掃工場内において、毎日内容物検査を実施し、収集業者からのヒアリングで不適正排出が認められた事業所に対して、即日電話による指導や改善がみられない場合は適宜訪問指導を行います。 ①-2・内容物検査で不適正排出が認められた事業者に対して、事業系廃棄物の出し方を理解していただくために、直接訪問での廃棄物の出し方等について説明を行っていきます。また、一般廃棄物講習会や保健所主催の食品衛生実務講習会などにおいて、事業系ごみの適正排出に関する説明を行ってまいります。また、インターネット等を活用したオンラインでの事業所向け講習会の開催を引き続き検討していきます。 ①-2・一般廃棄物処理業許可業者を対象とした説明会において、処理業許可基準の再周知、及び事業系一般廃棄物の清掃工場適正搬入について説明を行います。

取組施策	推進主体
3-1-2 優良事例の公表・拡大	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	表彰した事業者数（累計）					
	年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	目標値		4者	10者	14者	24者
	実績値	2者	7者	11者	20者	30者

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・引き続き、大規模事業所立入り時などでまちだ3R賞について周知を行い、事業所にとって申請する事がインセンティブとして感じられるような取組みを行っていきます。
①・2024年度も各種広報誌への掲載などで周知を行い、市内の事業所の参考となる効果的な取組みができるよう検討していきます。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
既存受賞者の取り組みが維持、継続できているか確認結果を明記したほうがいいのではないのでしょうか。	市内事業所の優れた取組みを年度ごとに表彰する制度となっているため、既存事業所の取組みなどの確認は行っておりませんが、今後まちだ3R賞の見直しの際の参考にさせていただきます。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①・大規模事業者立入り時にまちだ3R賞について周知を行いました。申請する事業所のインセンティブとなるよう、ホームページや各種広報誌での周知に加え、2023年度受賞事業所のポスターやチラシを作成し、受賞事業所に配付すると共に公共施設に掲示することで受賞事業所の取り組みの認知度向上を図りました。 また、9月24日に2023年度受賞事業所3者（学校法人玉川学園、日本生命町田ビル、東横INN町田駅小田急線東口）と懇談会を開催し、これまでの取り組みに加え、まちだ3R賞のあり方について意見交換を行いました。 受賞事業所からは、「自社のホームページ等で対外的に発信できることがインセンティブになっている」といったお話や、「まちだ3R賞のネーミングをキャッチーなネーミングにしてはどうか」などの意見があったため、今後のまちだ3R賞の参考としていきます。 ①・2024年度まちだ3R賞の申請・審査委員会（1月30日）を経て、10事業者の受賞が決定しました。受賞事業者への賞状贈呈式は、3月1日に開催されたまちだECOtoフェスタで実施しました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・引き続き大規模事業所立入り時などでまちだ3R賞について周知を行い、事業所にとって申請する事にインセンティブが感じられるような取組みを行っていきます。
①・2025年度も各種広報誌への掲載などで周知を行い、市内の事業所の参考となるような効果的な取組みができるよう検討していきます。

取組施策	推進主体
3-2-1 公共施設から排出される事業系ごみの削減	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	市庁舎から排出される事業系ごみの削減率					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		2%削減	4%削減	15%削減	15%削減	15%削減
実績値	—	1.9%削減	13.7%削減	13.6%削減	18.7%削減	

【2024年度の事業計画】

2024年度取組方針・内容
①・市で管理している施設から排出される事業系ごみの削減に向け、全職員を対象とした研修を定期的実施します。また、市庁舎から排出されるごみの調査・分析を行い、効果的な啓発を検討します。また、紙の使用量削減に向け、職員に対し啓発を行います。 ・引き続き雑がみ等の分別方法の周知を行うとともに、家庭系ごみとの違いや自治体によって排出方法が異なることについて周知を行います。 参考数値 ：2019年度実績値 市庁舎 総ごみ量：147.4 t 廃棄物：11.3 t 資源物：136.1 t（溶解分78.2 tを含む） 2023年度実績値 市庁舎 総ごみ量：127.3 t 廃棄物：11.0 t 資源物：116.3 t（溶解分58.8 tを含む）

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
公共施設の事業系ごみの排出は、分別と共に削減も徹底して下さい。	公共施設から排出される事業系ごみの削減のため、引き続き、職員への研修及び啓発を行ってまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①・市庁舎内の課から排出された燃やせるごみ（事業系一般廃棄物）の組成調査を実施しました（8月16日、2月5日）。 組成調査の結果から、排出割合としては減少したものの依然として燃やせるごみの袋の中に資源化できる紙類が多く含まれていたため、部長会議及び全庁掲示板にて調査結果及び雑がみ類の分別方法を周知しました。 また、お弁当のごみなど個人のごみやプラスチックごみの混入があったため、個人で出したごみは持ち帰って家庭ごみとして捨てることや、業務で排出されたごみ（事業ごみ）とそれ以外のごみ（家庭ごみ）の分別方法は異なる場合があり、業務で発生したプラスチックごみは産業廃棄物になるため分別して排出することを伝えるほか、資源化できる紙類の紹介や排出方法の周知を行いました。 2024年度は、過去に調査を行ったフロアの再調査を行ったため、結果を比較したところ、資源化できる紙類の混入が減少し、適正排出の割合が上昇しました。定期的に組成調査を行い、排出したごみを見える化して結果を報告するとともに分別・資源化の啓発を行うことで、適正排出の促進につながりました。 ①・全職員を対象としたeラーニングによる研修では、市庁舎内の組成調査結果を参考に、燃やせるごみに多く混入していた付せん等の紙類の分別方法を周知しました。 参考：2019年度実績値 市庁舎 総ごみ量：147.4 t 廃棄物：11.3 t 資源物：136.1 t（溶解分78.2 tを含む） 2024年度実績値 市庁舎 総ごみ量：120.2 t 廃棄物：12.9 t 資源物：107.3 t（溶解分54.8 tを含む）		

【2025年度の事業計画】

2025年度取組方針・内容
①・市で管理している施設から排出される事業系ごみの削減に向け、全職員を対象とした研修を定期的実施します。また、市庁舎から排出されるごみの調査・分析を行い、効果的な啓発を検討します。また、紙の使用量削減に向け、職員に対し啓発を行います。 ①・引き続き雑がみ等の分別方法の周知を行うとともに、家庭系ごみとの違いや自治体によって排出方法が異なることについて周知を行います。 参考数値 ：2019年度実績値 市庁舎 総ごみ量：147.4 t 廃棄物：11.3 t 資源物：136.1 t（溶解分78.2 tを含む） 2024年度実績値 市庁舎 総ごみ量：120.2 t 廃棄物：12.9 t 資源物：107.3 t（溶解分54.8 tを含む）

取組施策	推進主体
3-2-2 事業系生ごみの削減	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	フードバンクに関する情報提供団体数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		3団体	3団体	3団体	4団体	5団体
実績値	2団体	4団体	1 団体	2団体	1団体	
指標②	食べきり協力店認定数（累計）					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		10店	15店	20店	60店	100店
実績値	5店	8店	10店	1 6 店	18店	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・事業系ごみの削減対策として、フードバンクの活用を周知していましたが、品物によっては受入れしてもらえない物も出てきているため、ごみ削減に向けどのようなルートを活用していただくのが効果的なのか、事業所を交え検討していきます。 ②・登録店舗数の増加に向けて、引き続き関係部署と連携し、情報収集していきます。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
食べきり協力店については、飲食店側も取組みやすいと思うので、食べきり協力店に登録することによるメリット、特に効果的な媒体での周知を引き続き行っていただければと思います。	食品ロス削減に貢献している店舗として認知されることでお店のイメージアップにつながります。引き続き、認知拡大に向けた周知方法を検討してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①・大規模事業者立入り時にフードバンクの活用の周知を行いました。食堂を有する事業所などでは、利用者数の事前確認による仕入れ量の調整や、余った食材をおやつや翌日の朝食で提供するなど工夫し、必要以上のものを作らない、用意しない工夫をしていることが確認できました。また、防災備蓄品等も廃棄せずに職員への配付や利用者の食事として提供するなど、各事業所で工夫を凝らして廃棄せずに有効利用されていることが確認できました。 ②・Eco to フェスタ2024にキッチンカーを出店した店舗に市から働きかけをし4月に1店舗、また5月には町田市公式ホームページを見た店舗から申請があり、それぞれ食べきり協力店の認定を行いました。各店舗の取組み情報を町田市公式ホームページに掲載しました。 ②・食べきり協力店及びフードシェアリングサービス「TABETE」について、9月5日に商工会議所の食品・飲食業部会の役員会議で事業概要の説明を行い、市内の飲食店等への周知を依頼しました。 ②・9月25日、2月26日、3月14日に実施した食品衛生実務講習会にて食べきり協力店の申請書を配付し、申請を促しました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・事業系ごみの削減対策として、フードバンクの活用を周知していましたが、品物によっては受入れしてもらえない物も出てきているので、ごみ削減に向けどのようなルートを活用していただくのが効果的なのか、事業所を交え検討していきます。 ②・新規登録店舗数を増やせるよう引き続き関係部署と連携し情報収集していきます。

取組施策	推進主体
3-2-3 事業系紙類の減量・資源化	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	周知啓発活動の実施回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		10回	10回	10回	10回	10回
実績値	—	7回	10回	10回	10回	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・市内事業所において、禁忌品とされていた使用済み紙コップや紙皿を資源化できる古紙再生事業所が複数あるため、これまで焼却処理されていた古紙類の資源化について、大規模事業所等への立入り検査時に周知していきます。 ・紙類の回収方法については、場所や時間等の課題があるため継続して検討していきます。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
事業系紙類の分別指導の徹底と、資源化可能な紙類の回収方法を検討して下さい。	紙類が多量に出るほとんどの事業所は、既に資源化に取組んでいます。一方で、少量の事業所は一定量溜め込んで置くことが難しいため、一般廃棄物として排出されてしまっているのが現状です。事業所に対して資源化しやすい環境を整えていけるよう検討していきます。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①・大規模事業者立入り時に紙の資源化について周知しました。周知とあわせて資源化状況の聞き取りを行ったところ、多くの事業所ではパソコンを活用した会議を行うなど、ペーパーレス化に取り組んでいることが確認できました。 ①・清掃工場へ搬入されるごみの中には未だに紙資源が多数混入しており、内容物検査実施後に不適正排出が認められた事業所に対し、即日電話での指導を行い、資源化するよう周知しています。 ①・古紙問屋に回収してもらうにはある程度まとまった量の紙資源が必要であるため、保管場所の確保ができない事業所では一般廃棄物に紙資源が混入するという課題があります。中小規模事業所向けに古紙の拠点回収を行うことを検討し、市内事業所へ回収場所の相談を行いました。回収方法の具体的な検討には至りませんでした。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・大規模事業所では、ペーパーレス化が進んでいる一方で、各個人が排出する小さな紙資源が一般廃棄物に混入しているケースが見受けられます。事業所立ち入り時に事業所全体の取り組みと合わせて、個人が出す廃棄物のチェックにも注力していきます。 ①・内容物検査では、引き続き不適正排出への指導に取り組めます。 ①・事業系古紙については、排出が少量である事業所について受け入れ先等の検討など、資源化しやすい仕組みの構築を引き続き検討していきます。

取組施策	推進主体
3-3-1 事業系ごみ処理手数料の見直し検討	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	検討の実施					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	検討完了
実績値	—	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	

【2024年度の事業計画】

2024年度取組方針・内容
①・ごみの減量・資源化の推進を目的として、事業系ごみ処理手数料を2015年度に改定（値上げ）しています。社会情勢等を踏まえた価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
事業系ごみ手数料の値上げについては、燃料費や人件費の高騰から必要に応じてやむをえないと考える。事業者も経費抑制からごみ減量に対する認識も変わってくるものと思われる。	社会情勢や周辺自治体の情報収集を行いながら、引き続き検討を行ってまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①・周辺自治体の手数料の変動について情報収集を行いました。多摩26市では、2024年度において料金改定を行った自治体はありません。そのため、26市平均の事業系ごみ処理手数料は37.6円/kgで変更はなく、町田市の手数料の35円/kgは、平均と比較してやや安くなっております。		

【2025年度の事業計画】

2025年度取組方針・内容
①・ごみの減量・資源化の推進を目的として、事業系ごみ処理手数料を2015年度に改定（値上げ）しています。社会情勢等を踏まえた価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行い、手数料の見直しの検討を一度完了します。

取組施策	推進主体
4-1-1 環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備・運営	循環型施設管理課

【指標と目標値】

指標①		発電効率				
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)
実績値	約10% (既存焼却施設)	19.60%	20.86%	21.00%	21.28%	
指標②		燃やせないごみに含まれる資源化物の選別精度				
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		75%以上	75%以上	75%以上	75%以上	75%以上
実績値	—	硬質プラ：20.75% 小型家電：81.53%	硬質プラ：24.81% 小型家電：84.88%	硬質プラ：24.22% 小型家電：85.41%	硬質プラ：27.72% 小型家電：86.31%	

【2024年度の事業計画】

2024年度取組方針・内容
①・ごみ焼却施設の安定的な運営を継続できるようにモニタリングを行い、指標としている発電効率（17%以上）が達成されることを確認します。
②・暫定的に目標とした硬質プラスチック選別精度30%の達成に向けて運営事業者と協議を行い、改善を進めています。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
LiB対策として、収集時に混入が確認された場合、収集せずにステッカーを貼って排出者に対応改善を促すといった対応が必要ではないでしょうか。	不適物の混入を確認し、かつ、排出者を特定できた場合は、対象者宅を訪問して案内チラシを配付するなど、改善を促しています。また、排出者を特定できない場合は、シールを貼って残置する対応をとっています。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①・指標としている発電効率（17%以上）を達成できました。モニタリングを実施し、施設の安定稼働による発電効率の維持を確認しました。		
②・貯留コンテナ入替え時のタイムロスがなくすることで、継続して選別作業が行えるため選別精度が向上しましたが、目標値には届きませんでした。		

【2025年度の事業計画】

2025年度取組方針・内容
①・ごみ焼却施設の安定的な運営を継続できるようにモニタリングを行い、指標としている発電効率（17%以上）が達成されることを確認します。
②・暫定的に目標とした硬質プラスチック選別精度30%の達成に向けて運営事業者と協議を行い、改善を進めます。

取組施策	推進主体
4-1-2 生ごみのバイオガス化施設の整備・運営	循環型施設管理課

【指標と目標値】

指標①	発電量（熱利用率）					
	年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	目標値		350kWh/ごみt	350kWh/ごみt	350kWh/ごみt	350kWh/ごみt
	実績値	—	393kWh/ごみt	418kWh/ごみt	354kWh/ごみt	—

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・2023年11月4日に発生した火災でバイオガス化設備が停止したため、復旧までガス発電は行えない状態です。 （復旧は1年以上を要する計画となっており、2025年6月末に復旧完了予定であるため、2024年度のガス発電量はゼロとなる見込みです） ・復旧に向けた対応を運営事業者と進めていきます。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
充電式電池の混入数の多さは、想像をはるかに超えており作業の大変さを痛感した。市民への告知を、より端的に事態の重要性を強調して行ってほしい。	リチウムイオン電池等による火災で施設が甚大な被害を受けていること及び、リチウムイオン電池等、施設への混入本数や発火・発煙回数などの具体的な情報をHPに掲載し市民に周知します。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	—
取組経過・1年間の総括		
①・2023年11月4日に発生した火災でバイオガス化施設が停止中のため、発電量の実績値はありません。バイオガス化施設の復旧工事は2025年6月末の完了に向けて予定通りに進んでおり、火災防止対策として、発火・発煙を早期に検知するガス検知装置を3箇所設置とベルトコンベヤを金属製スクレーパーコンベヤに材質変更するとともに、散水ノズルを10箇所設置しました。 ①・火災の危険性があるリチウムイオン電池等の適正排出を促進するため、8月から充電式小型家電の行政収集を開始するとともに、小型充電式電池や充電式小型家電などの収集量及び、施設への混入本数や発火・発煙回数の情報をHPに記載しました。 ①・全国的にリチウムイオン電池等を使用した製品の普及が進み、小型充電式電池や充電式小型家電の行政収集量が増えていますが、施設への混入本数は減らず増えてしまっている状況です。 ①・リチウムイオン電池等によるごみ処理施設内の火災を防止するため、装置メーカーと協定を結び、2024年9月にリチウムイオン電池等検知システムの実証実験を行いました。実験結果はHP及び環境広報誌（ECOまちだ2025年2月号）でお知らせしました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・2023年11月4日に発生した火災でバイオガス化設備が停止したため、2025年4月～6月までは発電量が少ない状態です。 ①・復旧に向けた対応を運営事業者と進めていきます。 ①・復旧後のバイオガス化施設では、ごみ質の変動にかかわらず指標としている発電量が目標値を達成できるよう、運営事業者の施設運転状況等についてモニタリングを行います。目標値が達成できない場合、運営事業者と協議し、改善を促して目標値の達成を目指します。

取組施策	推進主体
4-1-3 資源化施設の整備	循環型施設整備課

【指標と目標値】

指標①-1		施設整備の進捗状況（相原地区）				
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		都市計画決定	事業認可・ 用地取得	用地取得	業者選定 用地取得	用地取得・実施設計・ 自然環境調査・整備工事開始
実績値	施設概要の検討	都市施設の告示	事業認可・ 用地取得開始	用地取得	用地交渉 業者選定準備	
指標①-2		施設整備の進捗状況（上小山田地区）				
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		関係者等との調整		施設計画位置再検討・用地測量		
実績値	施設概要の検討	施設概要の検討	施設概要の検討	関係部署との調整	関係部署及び 地元住民との調整	

【2024年度の事業計画】

2024年度取組方針・内容
・2023年5月に改定した町田市資源循環型施設整備基本計画に基づき、ビン、カン、ペットボトル、容器包装プラスチック等の資源ごみ処理施設を市内に分散して整備します。また、2022年4月に施行されたプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラ新法）に基づき、国や都の動向にも注視しながら容器包装プラスチック及び製品プラスチックの資源化に向けた施設整備を目指します。 ①-1・相原地区の資源ごみ処理施設整備に向け、事業用地の取得について対象地7件中残る3件の取得を目指します。 ①-2・上小山田地区の資源ごみ処理施設整備に向け、庁内関係部署及び上小山田地区資源循環型施設連絡会、その他関係者と調整し、施設位置の再検討を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
計画が延期されていることから、容器包装だけでなくプラスチック全体の資源化について早急に検討することが求められる。	現状では、近隣に製品プラスチックの中間処理を行える事業者がいませんが、事業者が見つかった場合は、製品プラスチックを含んだプラスチック類の分別収集・資源化を開始する予定です。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①-1・相原地区の資源ごみ処理施設の整備については、事業用地の対象地7件のうち、残る3件との交渉を行いましたが、取得には至りませんでした。また、発注仕様書の素案について関係部署と調整を行ったほか、業者選定基準案の作成を行いました。 ①-2・上小山田地区の施設については、6月に上小山田地区資源循環型施設連絡会を開催し、7月には地元住民を対象とした説明会を実施しました。下半期には、関係部署と共に施設計画位置の再検討するための調整を進めてきました。しかし、道路の高さなど具体的な設計条件が整っていないため、建設地の決定には至りませんでした。また、地区連絡会の委員を対象に施設内容の理解を深めるため他市施設の見学会を実施しました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度取組方針・内容
①-1・相原地区の資源ごみ処理施設の整備については、自然環境調査を行います。また、地区連絡会を適宜開催し、情報提供に努めます。 ①-2・上小山田地区の施設については、関係部署との協議を継続的に実施し、施設計画位置の決定に向けて再検討を行います。また、地区連絡会を適宜開催し、情報提供に努めます。

取組施策	推進主体
4-2-1 収集体制の見直し	ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①	効率的な収集体制の構築					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	方針検討	方針決定	実施準備	構築
実績値	—	情報収集	方針検討	プラスチック 収集方針決定	方針検討	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・収集体制の見直しで排出方法等が変わる容器包装プラスチックについて、市民にとって分かり易い周知と、効果的な啓発の方法を検討し、準備を開始します。
①・見直し項目の一つである「週5日収集への変更」については、「物流2024年問題」の影響を見極めつつ、引続き検討します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
収集体制の見直しに関しては、実施に向けて事業者との協議を継続して下さい。また、デジタル技術を導入して、収集作業の効率化を図る事も検討して下さい。	収集事業者やデジタル技術開発事業者へのヒアリングも行いつつ、検討を進めます。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①・2026年4月から市全域での容器包装プラスチックの戸別収集開始に向け、契約の仕様を確定し、収集委託事業者と業務契約を締結しました。また、分別方法や排出方法を案内するパンフレットを作成しました。町内会・自治会への説明会開催の準備を進めました。		
①・「週5日収集への変更」に向けて、課題を明らかにするため、収集委託事業者との話し合いを進めました。		
①・収集委託事業者が人員不足のため事業継続困難となり、他の事業者へ収集地区を振り分けることで事業を継続することになりました。「物流2024年問題」による影響が、収集事業においても顕在化しました。		
①・収集作業の効率化に向け、「ごみ収集支援システム」の他市の導入事例の調査などを行い、導入に向けた準備を進めました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・2026年4月の容器包装プラスチックの市全域での戸別収集開始に向けて、収集事業者の準備状況を確認しながら準備を進めます。また、容器包装プラスチックの指定収集袋の全市展開と合わせて、分別方法の案内をすすめていきます。
①・人員不足が一層進むことが予想される中、収集ルートの見直しなど収集作業の効率化を進めることが急務であるため、「ごみ収集支援システム」を導入してデータ収集を始めます。

取組施策	推進主体
4-3-1 資源化の拡大	環境政策課 循環型施設管理課

【指標と目標値】

指標①	調査研究の実施					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		実施	実施	実施	実施	実施
実績値	—	実施	実施	実施	実施	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・新たな資源化品目の設定を目指し、増加傾向にあるごみ種などの資源化に向けた調査研究を行います。 ①・プラスチック類の資源化品目拡大に向け、使い捨てコンタクトレンズの空ケースの回収や使用済プラスチック製ペン等の回収場所を拡大します。 ①・各家庭で使用されている家庭用生ごみ処理機から排出される一次生成物の回収については、個別の回収方法の確立や受入れ先の確保等課題があるため、引き続き、検討していきます。 ①・新たな資源化の取組として、リレーセンターみなみの機器保守点検で発生した廃油を再資源化できる業者へ売払います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
事業者や団体が行っているプラスチック製品等の回収をリサイクル広場や公共施設、小売店等と協力しながら推進していくことを今後も進めていきたい。	事業者や団体が独自に実施しているプラスチック製品等の回収について事例研究を続け、連携の可能性を探ってまいります。現在行っている取り組みについても、引き続き各種協力団体と連携しながら推進してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①・新たなごみ種について調査し、木質家具以外の木材（根株、直径30 c m以上の樹木）、落じん灰、スプリングマットの資源化について事業者へのヒアリングを実施しました。 ①・リレーセンターみなみ及びカン資源化施設の保守点検等から発生した廃油（作動油 約2,200リットル）を再資源化できる業者へ売払しました。 ①・2月から、リサイクル広場の回収品目の対象を広げるため、「洗剤の計量スプーン」を「プラスチック製の計量スプーン」、「パン袋の留め具」を「プラスチック製の留め具」に変更しました。この変更により、粉ミルクの計量スプーンやプロテインの計量スプーン、野菜の留め具などが新たな資源化品目となりました。 ①・各家庭で使用されている家庭用生ごみ処理機から排出される一次生成物について、市内の堆肥を活用している農家の方や農業研修を行っている団体と意見交換を行いましたが、活用方法の確立には至りませんでした。 ①・使い捨てコンタクトレンズケースと使用済みプラスチック製筆記具類の回収場所拡大に向け、地域リサイクル広場開催団体や委託業者と調整を行い、3月から不定期開催の地域リサイクル広場の協定を結んでいる9団体でも回収ができるようになりました。 ①・新たな資源化品目の設定に向けて、多摩26市での資源化の取組について調査を行いました。 ①・紙おむつのリサイクルについて、10月2日に東京紙パルプ交易(株)と意見交換を行いました。 ①・難再生古紙の資源化について、紙製容器包装リサイクル推進協議会と意見交換を行いました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・新たな資源化品目の設定を目指し、増加傾向にあるごみ種などの資源化に向けた調査研究を行います。 ①・引き続き、各家庭で使用されている家庭用生ごみ処理機から排出される一次生成物について、回収方法や受入れ先確保等の課題解決のため、調査・検討していきます。

取組施策	推進主体
5-1-1 災害時等のごみ処理に関する計画の見直し	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	災害廃棄物処理計画及び職員行動マニュアルの見直し					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		見直しの実施	見直しの実施	見直した職員行動マ ニュアルの検証	見直しの実施	見直しの実施
実績値	—	見直しの実施	見直しの実施	職員行動マニュアル の検証	見直しの実施	
指標②	事業継続計画の見直し					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		見直しの実施	見直しの実施	—	—	—
実績値	—	見直しの実施	見直しの実施			

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・町田市地域防災計画を2023年度に修正したことに伴い、町田市災害廃棄物処理計画の修正を行います。また、仮置場の現地調査の結果を計画に反映します。
①・災害廃棄物処理を想定した訓練を通じて、職員行動マニュアルの検証を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
災害時の計画は、災害の規模などがかなり異なるので計画を作成すること自体がかなり難しい。国・都・周辺自治体との連携も必要でどこまでできるのでしょうか？「絵にかいた餅」にならないようにしてほしい。	「町田市地域防災計画」及び「町田市災害廃棄物処理計画」においては、首都直下地震の中でも町田市に被害が大きい多摩直下地震の被害想定をもとに作成しています。国や都の災害対応への意識も高まっており、研修会や勉強会が複数開催され、都度意見交換をしております。計画が実効性のあるものとなるようにしてまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
①・東京都災害廃棄物処理計画や町田市地域防災計画の改定、仮置き場の現場調査の結果等を反映させた町田市災害廃棄物処理計画（2025年1月修正）を策定しました。 ①・仮置場の開設、運営、搬入の検証を行う実動訓練を災害廃棄物に関する協定等を締結した事業者の立会いのもと、10月30日に実施しました。 ①・訓練の結果を踏まえて、下半期に職員行動マニュアルの検証を行いました。仮置き場運営に当たっては、受付業務のスピードアップや協定事業者との事前調整が必要であることなどを課題として確認できました。	○

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・町田市災害廃棄物処理計画の修正を踏まえて、職員行動マニュアルの修正を行います。
①・災害廃棄物処理を想定した訓練を通じて、修正した職員行動マニュアルの検証を行います。

取組施策	推進主体
5-1-2 災害時等の教育・訓練	環境政策課 ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①	災害時の対応訓練の実施回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		1回	1回	1回	1回	1回
実績値	—	1回	1回	1回	2回	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・引き続き、災害廃棄物処理に関する理解を深め、部署内で知識や経験を定着させるために、仮置場の開設、運営、搬入の検証を行う実動訓練を、災害廃棄物に関する協定を締結した事業者と連携して実施し、仮置場の開設手順や搬入の流れについて確認します。2023年度の訓練を通し、役割・会場レイアウトについて、より詳細な認識共有が必要であること等の課題が確認できたため、事前準備を強化し、更に効果的な訓練をめざします。 ①・災害時の資源とごみの適正排出について、環境広報紙「ECOまちだ」、「資源とごみの収集カレンダー」に啓発記事を掲載します。また、市HPに掲載した災害時のごみの出し方について、適宜、内容の見直しを行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
今後も増えると予測される災害に関して、教育や訓練にはぜひとも力をいれてほしい。	2023年度から、協定締結事業者の皆さまと一緒に訓練を始めることができました。発災時に迅速に連携ができるように、訓練内容をブラッシュアップしてまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
①・仮置場の開設、運営、搬入の検証を行う実動訓練を災害廃棄物に関する協定等を締結した事業者の立会いのもと、10月30日に実施しました。新たな取組として、これまで訓練に参加したことがない参加者に対して、災害廃棄物に関する事前の勉強会及び訓練に使用する機材のレクチャーを実施することで、効果的な訓練を実施できました。 ①・1月30日に、環境省関東地方環境事務所主催の「災害廃棄物処理に係る地理空間情報を生かした情報伝達訓練」に参加しました。災害時に、情報の収集・伝達ツールとして地理空間情報システムを活用することにより、情報をリアルタイムで集約し、関係主体間で共有することができるようになります。被災自治体への円滑な支援・受援に寄与することが期待されています。訓練内容については、災害廃棄物の処理に関する総合調整を実施する、清掃総務班内にて共有いたしました。 ①・9月に全戸配付した「資源とごみの収集カレンダー」に、災害時のごみの出し方に関する記事を掲載しました。また、「防災の日（9/1）」の前日に、災害時のごみ出し等に関する啓発記事をSNSで発信しました（8/31）。 ①・ECOまちだ11/1号に「災害時のごみの出し方」について記事を掲載し、災害ごみの適正排出と日常的な備えについて周知しました。	

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・引き続き、災害廃棄物処理に関する理解を深め、部署内で知識や経験を定着させるために、仮置場の開設、運営、搬入の検証を行う実動訓練を実施し、仮置場の開設手順や搬入の流れについて確認します。2024年度の訓練を通し、役割や業務について、より詳細な認識共有が必要であること等の課題が確認できたため、事前準備を強化し、災害廃棄物に関する協定を締結した事業者との連携を新たに取り入れることで、更に効果的な訓練をめざします。 ①・災害時の資源とごみの適正排出について、環境広報紙「ECOまちだ」、「資源とごみの収集カレンダー」やSNSに啓発記事を掲載します。また、市HPに掲載した災害時のごみの出し方について、適宜、内容の見直しを行います。

取組施策	推進主体
5-1-3 応援・受援体制の整備	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	他自治体等との連携体制の構築					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	協定締結	拡充	拡充	拡充
実績値	—	情報収集	協定締結	拡充（29社）	拡充（29社・1団体）	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・災害廃棄物の仮置場運営に必要な重機や資機材を所有している建設事業者との協定締結に向けた調整を行います。また、引き続き、災害廃棄物の収集運搬処理が可能な事業者の情報収集を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
災害廃棄物への対応については、今回の能登半島地震に際しての応援派遣のように、現場での経験も踏まえて体制の整備や訓練などに活かすといのではないのでしょうか。	これまでの被災地への派遣経験者の意見を取り入れながら、体制の整備や訓練などを進めてまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
【ごみ政策係】 ①・災害廃棄物の仮置場の管理体制の強化に向けて、管理に必要な重機や資機材を所有している建設事業者1団体と4月25日に災害廃棄物の処理等に関する覚書を締結しました。これにより、協定等の締結先事業者は29社・1団体となりました。 ①・1月30日に、環境省関東地方環境事務所主催の「災害廃棄物処理に係る地理空間情報を生かした情報伝達訓練」に参加しました。災害時に、情報の収集・伝達ツールとして地理空間情報システムを活用することにより、情報をリアルタイムで集約し、関係主体間で共有することができるようになります。被災自治体への円滑な支援・受援に寄与することが期待されています。訓練内容については、災害廃棄物の処理に関する総合調整を実施する、清掃総務班内にて共有いたしました。 ①・能登半島地震における災害対応に関する人的支援として、2024年3月に続き5月6日から6月1日までの期間、環境資源部及び道路部職員計8名を石川県志賀町へ派遣し、公費解体・自費償還制度相談及び申請受付業務に従事しました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・これまでに協定締結をした事業者等との連携を深めるため、災害廃棄物処理に係る勉強会を実施します。
①・災害廃棄物の収集運搬処理が可能な事業者の情報収集を行います。

取組施策	推進主体
5-2-1 高齢者等に対応した収集体制の検討	ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①	資源の戸別収集の検討					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	方針検討	方針決定	実施準備	完了
実績値	—	情報収集	方針検討	方針検討	方針検討	
指標②	ふれあい収集事業の見直し					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	方針検討	方針決定	実施準備	完了
実績値	—	情報収集	方針検討	方針検討	方針検討	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・資源物の戸別収集については、「物流2024年問題」の影響を見極めつつ、引き続き検討します。 ②・ふれあい収集事業については、収集体制の見直し（取組施策4-2-1）の状況を踏まえつつ、引き続き収集主体や方法等の検討をします。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
高齢者への対応としては、粗大ごみだけではなく通常のごみ出しについても困難が生じている事例を聞く。福祉の部署との連携等も含めて検討していく必要があると思う。	「高齢者等に対応した収集体制の検討」については、課題が多いことを認識しております。今後は実現の可能性も含めて検討してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①・資源物の戸別収集について、必要人員や費用算定に向けて必要条件等の検討を始めたところ、人員不足による事業への影響（「物流2024年問題」※）が収集事業において顕在化しました。 ②・ふれあい収集について、高齢者支援センターにアンケートを実施し、申請手続きの電子化や周知用チラシに関する要望など、いただいたご意見を参考に申請方法の見直しや効果的な周知の方法などを検討しました。 ②・ふれあい収集の利用者は、2023年度から34名増加し544名となりました。利用者増加が続くなか、収集事業を安定的に継続していくために、対象者要件や訪問頻度の見直しを検討しました。 ※可燃ごみの収集委託事業者が、人員不足のために事業継続困難となり、他の委託事業者に振り分けて収集事業を継続しました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①②・資源物の戸別収集、利用者増加が続くふれあい収集には、大幅な増員が必要です。 ・2026年4月から容器包装プラスチックの市全域での戸別収集を開始するため、大幅に増員します。 ・人員不足による影響が出ている中で、収集事業を安定的に継続していくために、資源物の戸別収集、ふれあい収集については、収集体制の見直し（取組施策4-2-1）と一体的に見直しを検討します。

取組施策	推進主体
5-3-1 不用品の違法回収防止対策の推進	環境政策課 ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①		指導体制の確立					
年 度		2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			体制の検討	体制の検討	体制の確立	体制の運用	体制の運用
実績値		—	体制の検討	体制の検討	体制の確立	体制の運用	
指標②		違法回収利用の未然防止を図るための啓発回数					
年 度		2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			5回	5回	5回	5回	5回
実績値		1回	5回	6回	5回	8回	

【2024年度の事業計画】

※環境政策課3回、ごみ収集課5回

2024年度の取組方針・内容	
①・消費生活センターとの連携や東京都、他市との情報共有を行い、不用品回収業者に対し効果的な指導ができるよう、対応していく手法や業務体制を確立していきます。 ①・東京都やごみ収集課との連携による不用品回収業者に対してのパトロールや立入を実施して、違法回収業者の利用を未然に防止するための対策を継続して行っていきます。また、不用品回収業者はいつどこに現れるかわからないため、引続き連携を強化し体制を確立していきます。 ②・市民が無許可の不用品回収業者とのトラブルに巻き込まれないよう、市内の巡視やSNS等を活用して適宜、情報発信していきます。	

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
ごみ分別アプリに不用品回収業者について掲載したらどうか。	ごみ分別アプリやSNSで無許可の不用品回収業者についての注意文を掲載いたしました。今後も、アプリや情報媒体等で周知啓発を行っていきます。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①・2023度から、東京都と連携し不用品回収業者の違法回収防止に関して連携した取り組みを実施していますが、2024年度の指導実績はありませんでした。不用品回収業者はいつどこに現れるかわからないため、引き続き東京都との情報共有や、投函されるチラシ等の確認など情報収集を欠かさず、東京都やごみ収集課（警察OB）と連携した運用を行っていきます。 ①・自治会から不用品の回収があると情報提供があったため、2月26日に巡回を実施しましたが、回収業者を確認することができませんでした。 ②・市民が無許可の不用品回収業者とのトラブルに巻き込まれないよう、5月にSNSや町田市ごみ分別アプリを活用して、情報発信しました。 ②・不用品回収業者の違法回収防止のため、市職員によるパトロールを実施しました（279回）。 ②・無許可の不用品回収業者を利用しないように、SNS（8/14、9/27）、「資源とごみの収集カレンダー」（9月）や、町内会・自治会のチラシ回覧（11月）、町田市ごみ分別アプリ（2月）を活用し、注意喚起しました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容	
①・消費生活センターとの連携や東京都、他市との情報共有を行い、不用品回収業者に対し効果的な指導ができるよう、対応していく手法や業務体制を運用していきます。 ①・東京都やごみ収集課との連携による不用品回収業者に対してのパトロールや立入を実施して、違法回収業者利用の未然防止対策を継続して行っていきます。また、不用品回収業者はいつどこに現れるかわからないため、引続き連携を強化し体制を確立していきます。 ②・市民が無許可の不用品回収業者とのトラブルに巻き込まれないよう、引き続き市内のパトロールの実施、SNSや町田市ごみ分別アプリを活用して適宜、情報発信していきます。 ②・市民が無許可の不用品回収業者とのトラブルに巻き込まれないよう、引き続きパトロールとともに、SNS等を活用して注意喚起します。	

取組施策	推進主体
5-3-2 不法投棄防止対策の推進	ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①	不法投棄防止・抑止活動の実施回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		198回	176回	198回	198回	198回
実績値	148回	176回	198回	198回	198回	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・昼間、夜間のパトロールのコースの見直しを行い、不法投棄の防止、抑止を図ります。 ①・不法投棄多発場所に監視カメラや啓発看板を設置し、不法投棄がされにくい環境を整えます。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
啓発看板やちらしの管理が行き届いていない状況（例えば、看板が傾いていたり、落書きされているなど）は、逆に、人の目が行き届いていないことを表してしまうため、注意が必要である。	日常行っているパトロールで集積所や不法投棄防止の看板の状態をチェックし、異常があれば即時対応しています。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①・市民からの相談や情報提供などを踏まえてコースを見直し、昼間150回、夜間48回パトロールしました。また、市民からの相談をふまえ、監視カメラ（1か所）と啓発看板105枚を新たに設置しました。 ①・注意喚起の効果を維持するため、パトロール時に集積所、不法投棄防止看板のチェックを行い、異常のあった看板の撤去（7件）、散乱しているごみの回収（約100件）などを行いました。 ①・注意喚起の効果を維持するため、10月に発生した悪質な不法投棄案件では、町田警察署及び市民と情報共有し、連携して対応した結果、12月に投棄者を特定して排出指導を行い、自主回収させたうえで適正排出させることができました。 ①・2023年度1,380Kgだった不法投棄及びルール違反の廃棄物の回収量は、2024年度は360Kgに減少しました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・市民からの情報提供や相談などをふまえてパトロール時間や場所を見直し、監視カメラや啓発看板の不具合なども点検することで、不法投棄がされない環境を維持します。

取組施策	推進主体
5-3-3 まちの美化の推進	環境共生課

【指標と目標値】

指標①	美化推進キャンペーン実施回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		4回	20回	22回	22回	22回
実績値	4回	18回	27回	30回	35	

【2024年度の事業計画】

2024年度取組方針・内容
①・美化推進重点区域内及び付近の町内会・自治会や商店会等と協力して啓発品の配布や清掃活動を行う「美化推進キャンペーン」や、主に市の職員が市内各駅周辺にて啓発品の配布や清掃活動を行う「美化推進キャラバン」等により美化推進啓発活動を行います。 ①・より幅広い方に美化活動を行ってもらえるよう、キャンペーン参加者を公募するなど啓発活動の方法について検討します。 ①・ハスのんInstagramへの投稿や、市のホームページを活用し美化推進重点区域の周知等、情報発信を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
美化関連は十分行われているが継続することを期待する。	引き続き、美化活動を実施してまいります。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	◎
取組経過・1年間の総括		
①・2024年度は、ごみゼロデー美化キャンペーン1回、美化推進キャンペーン4回、美化推進キャラバン6回、町田駅周辺巡回指導12回、啓発記事発信12回、合わせて35回の啓発活動を行いました。 ごみゼロデー美化キャンペーン：南町田グランベリーパーク（5月25日） 美化推進キャンペーン：成瀬（6月27日）、多摩境（10月27日）、鶴川（11月21日）、町田（2025年1月18日） 美化推進キャラバン：相原（4月25日）、玉川学園（7月4日）、町田（8月1日）、すすかけ台（9月30日）、つくし野（12月5日）、町田（2025年1月30日） 町田駅周辺巡回指導：4月23日、5月23日、6月25日、7月25日、8月22日、9月26日、10月22日、11月28日、12月19日、2025年1月23日、2月13日、3月19日 啓発記事発信：ごみゼロデー（5月1日） 鶴川駅ごみゼロデー美化キャンペーン実施、結果報告（5月1日、5月30日） 成瀬駅キャンペーン実施、結果報告（6月3日、7月5日） コドマチフェスティバルでの啓発（5月30日） ※子ども総務課主催のコドマチフェスティバルで、啓発物品設置 多摩境駅キャンペーン実施、結果報告（10月1日、11月5日） 鶴川駅キャンペーン実施、結果報告（11月5日、12月2日） 町田駅キャンペーン実施、結果報告（1月6日、1月24日） ①・ごみゼロデー周知のため、以下の媒体を利用した周知啓発を行いました。 東急リパブル町田センター大型ビジョン1回（5月1日） 町田市メール配信サービス1回（5月1日） 神奈川中央交通バス車内のデジタルサイネージ1回（5月1日） ①・町内会・自治会や事業者等計64団体と連携して清掃・啓発活動を行った美化キャンペーン、職員が清掃・啓発活動をした美化推進キャラバン、5/30の「ごみゼロデー」周知にあたって多くの市民が利用する神奈川中央交通バス車内のデジタルサイネージへの掲載など、幅広くまちの美化の啓発活動を行い、まちの美化について推進することができました。また、2024年度は、美化キャンペーンの地域に関わらず、幅広い方が参加できるよう広報まちだやHPで参加者を公募しました。 今後ともより多くの方にまちの美化について啓発できるよう検討していきます。		

【2025年度の事業計画】

2025年度取組方針・内容
①・美化推進重点区域内及び付近の町内会・自治会や商店会等と協力して啓発品の配布や清掃活動を行う「美化推進キャンペーン」や、主に市の職員が市内各駅周辺にて啓発品の配布や清掃活動を行う「美化推進キャラバン」等により美化推進啓発活動を行います。 ①・より多くの方に美化活動を行ってもらえるよう美化推進キャンペーン以外の美化活動についても検討・実施します。 ①・ハスのんInstagramへの投稿や、市のホームページを活用し美化推進重点区域の周知等、情報発信を行います。

取組施策	推進主体
5-3-4 持ち去り行為防止対策の推進	ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①	持ち去り防止活動の実施回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		5回	6回	7回	8回	10回
実績値	3回	0回	3回	4回	5回	

【2024年度の事業計画】

2024年度の取組方針・内容
①・地域住民のパトロール参加が難しい地域では、警察、市の合同パトロールを行い、啓発看板の掲示等持ち去り行為をする者を近寄らせない環境づくりを継続して進めます。 ①・持ち去り行為を防止するため職員による持ち去りパトロールを実施し、持ち去り者に対する指導を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
持ち去りに関しては市民だけでは対応できずトラブルが発生することが多い。困ったときにはすぐに連絡してもらうように繰り返しお知らせしてほしい。	市HPに対応方法を掲載しています。またSNSなどでも適宜、お知らせしていきます。

【評価】

2024年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①・自治会・町田警察署・市の合同で6/20、10/17、2/20に資源物持ち去り防止活動の合同パトロールを行い、持ち去り行為をする者を近寄らせない環境づくりを協働して進めました。 ①・不法投棄の可能性のある場所へのパトロールと合わせて、過去に持ち去り行為が目撃された資源回収地域を職員がパトロールしました。 ①・市HPで、持ち去り行為を目撃した場合には市へ情報提供いただくよう呼びかけ、合同パトロール実施の相談を受けていることを案内しました。		

【2025年度の事業計画】

2025年度の取組方針・内容
①・今後も地域の方々と協働して持ち去り行為をする者を近寄らせない環境づくりをすすめるために、市HPで合同パトロール実施の相談についてお知らせしていきます。 ①・職員によるパトロールを引き続き実施し、持ち去り行為を抑止します。 ①・持ち去り行為を目撃した場合について、警察へ通報するとともに市へ情報提供いただくことを、市HPやSNSで繰り返しお知らせします。